

# コミュニティセンター検討委員会視察（感想）

視察日 ; 平成25年10月3日

視察先 ; 近江八幡市役所、八幡学区まちづくり協議会

参加者 ; 江川委員長、太田副委員長、谷根三国区長会連合会副会長（近藤委員代理）、寺島加戸公園台まち協事務局長（山崎委員代理）、山崎加戸公民館長（山本委員代理）、多田委員、大川委員、北委員、小林委員、長谷川委員、吉澤委員、北藪委員、陶山委員、定池委員、事務局15名（計29名）

## 《感想》

### ●組織

- 1) 組織強化、人材育成がどこでも大きな課題となっている。
  - ・現在の八幡学区まち協は、設立時のやる気のある方々が活動を行っているが、将来、その方々が退かれた後の後継者育成が見えていないのが不安である。
  - ・コミセン化は時代の流れではあると思うが、コミセンをまち協に委託するには、現行の組織では不安に思う。
  - ・八幡学区まち協では、各種団体などの人材を一本釣りして後継者を確保しているらしいが、自分のまち協ではスタート時のメンバーばかりで年々高齢化しており、組織の維持も不安である。
- 2) まち協で活動する役員や会員は、完全なボランティアのままでいいのだろうか。旅費や通信費も貰えずポケットマネーを使ったり、労力や時間を取られたり、重い責任がかかったり、気苦勞も多いのが現状です。
- 3) 八幡学区まち協の組織のきめ細かさ、役員等の指導力の素晴らしさに驚きました。
- 4) 坂井市と比べると人口はほぼ同じだが、公民館数は半分くらいであり、再編が行われたのでしょうか。公民館区の再編も検討した方がいいと思います。
- 5) 八幡学区まち協は、市街地にあり人口も多く各種団体から構成されており、自分達のまち協とは多々相違点がある。他のまち協も見てみたい。
- 6) 地区内の各種団体をまち協に取り込んでいかないと、コミセンや運営面で困難になると思われた。組織の再構築が必要である。
  - ・各種団体の助成金及び監督機関を一本化できないか。（一つの交付金にまとめる）
  - ・現行のやり方では各種団体のまち協への取り込みは困難であると思われる。
  - ・地域のあらゆる組織をまち協に取り組むには、どの様にしたらよいか考えさせられた。
  - ・まち協の設立時期はほぼ同じであるが、構成組織が幅広い点、コミセン移行がスムーズに進んだ点が異なる。当市もコミセンに移行するには、公民館が世話している団体を取り込む必要があり、ハードルが高いと思う。
- 7) 区長会とまち協との事務分担がそれぞれの役員で決められたことがいいと思う。区長とのコミセン検討委員会に早急に取り組むべき。
- 8) まち協と区長会との一体化については、分からない点があった。区長を市はどの様に

位置付けするかによって、まち協との関係も違ってくるのでは。

- 9) 八幡学区まち協は、区長会が前進となり設立されたようで、理想的な地域活動を行っている。
- 10) 区長会がまち協の総務部会に所属していたことは興味深かった。坂井市は区長会組織が弱いところが多いので、他のまち協の状況も聞きたい。

## ●運営・管理

- 1) まち協の活動に対する支援として公用車を配置したこと、またその公用車からの広告料をまち協の収益としている点が斬新であった。
- 2) 八幡学区まち協の説明は、坂井市が示す方針とほぼ同様な内容となっていた。
- 3) 坂井市も、「金は出すが口は出さない」くらいの大きな考えを持ち、まち協交付金を自由に活用できる方向を示したらどうかと思った。
- 4) コミセンの管理、運営は将来、地域が自主的に行うのが理想であると感じた。
- 5) コミセン職員も運営も旧公民館から引き継いで新たな組織にしたように見えるが、本当の地域独自のコミュニティが生まれてくるか疑問に感じた。
- 6) 地域もまち協も考え方はいろいろです。同じやり方にこだわらず、維持管理費、運営費、人件費等を交付金のメニューに提示し、コミセン委託等に関し、個別に協議していくもの方法ではないでしょうか。
- 7) 最終的には、コミセンをまち協に移譲していくのがベターである。
- 8) 八幡学区まち協の皆さんは、コミセン化に自負があるようで、どこから質問してきても OK という姿勢は羨ましい。ただし次世代に繋いでいくのは難しそうに思った。
- 9) 土日閉館で、イベントはいつするのか疑問に思った。
- 10) 近江八幡市と坂井市では地域特性が異なるので、坂井市にあった施設管理や運営をして欲しい。
- 11) 近江八幡市では、各種団体の企画運営・会計は公民館任せあったらしいが、坂井市では団体独自で行っていても不便は感じない。
- 12) 八幡学区まち協での地元負担金は 1250 円／世帯であったが、自分達のまち協ではこの負担金への抵抗感が強くなっており値下げも検討している現状である。
- 13) 坂井市のまち協が一斉にコミセンに移行するのは無理がある。モデル 1～2 地区で先行実施がいいと思う。
- 14) 八幡学区まち協の運営に感心しました。規模が大きいため他のまち協も確認したい。人件費割合が高いため地元負担も高い。
- 15) 交付金使途が地域任せという基本方針が地元で周知徹底しており、地域との信頼関係が構築され素晴らしいと思う。
- 16) 千円を超える地区負担金は、規約を定め区長会を通じ住民理解を得るべきと思う。
- 17) コミセン化最大の目的は、コミセンを地域づくりの拠点と位置付け、まち協に移譲（譲渡、貸与、指定管理）することにあると感じた。坂井市は、コミセン化の進め方として、近江八幡市方式が望ましいと思う。最終的には、指定管理までもっていくべきと考えます。
- 18) まちづくり 3 年計画が策定され、まちづくり事業が計画的に推進されていることに感

銘した。

## ●社会教育関係

- 1) コミセンは教育委員会と関係が薄れたため、生涯学習の推進が難しくなり、現在生涯学習の再構築を検討している。また、センター長、センター職員は施設管理が中心となり、従来の公民館の役割が果たされておらず問題である。  
まちづくり事業も生涯学習事業も共に重要であり、関連しあうものなので、これをどの様に進めていくかを考えなければいけない。
- 2) コミセン化に伴う社会教育事業のまち協委託により、社会教育事業が弱くなったように思われる。社会教育は、携わる人の力量に大きく影響されるので、人材育成が重要であると思います。また、八幡学区まち協においても社会教育に対し興味が無いように感じられ、従来の公民館事業が弱くなった気がする。坂井市においては、社会教育分野に力を入れてほしい。
- 3) 近江八幡市では中央公民館の業務を生涯学習課の一人が担当しているが、これは無理がある。中央公民館の機能を発揮させるには、複数の職員を配置し独立させるのがいいと思います。
- 4) 社会教育に関しては学ぶべき点が少なかった。公民館活動を集約しただけで前向きな姿勢が感じられなかった。市民のニーズに合った内容が必要でないか。

## ●職員

- 1) 市雇用職員（センター職員）とまち協雇用職員が混在することで、将来、待遇面に差が生じ、影響が出ないか疑問に思う。
- 2) まち協内でのボランティアの人と職員との住み分けや、コミセン職員との同居が更なるハードルとなるのではないのでしょうか。
- 3) コミセンの職員の任用・役割や、まち協運営に関し市の説明が足りないのでは。
- 4) センター長が、まち協の役員を兼務することは、地域づくりを円滑に推進するためには非常に良いと思う。坂井市も取り入れるべき。

## ●名称

- 1) コミュニティセンターという名称が適当か疑問です。

## ●その他

- 1) まちづくりに対する首長の強い思いとリーダーシップが必要と感じられた。  
まち協役員の熱意にも感動した。
- 2) 区の会計年度（区長任期）を、4月～3月にできないか。まち協と区の会計年度が異なるため、12月までは活動も活発であるが、1～3月は低迷しているように思われる。
- 3) 近江八幡市では、「協働のまちづくり基本条例」でまち協の位置付けと市の支援を明文化している点が、坂井市との相違であると感じた。条例の見直し、又は規則や要綱を策定し整理する必要があるのでは。